令和４年度　宮崎県立小林こすもす支援学校関係者評価書

４段階評価　　４　十分満足できる　　３　ほぼ満足できる　　２　やや物足りない　　１　改善を要する

【　総　評　】

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
教育活動	1　児童生徒の実態に即した教育課程の編成と教育計画 2　分掌部や学部間の連携、円滑な校務運営 3　生きる力を育くむための教材教具の開発や学習環境の整備 4　集団生活への参加、友達と協力する態度や能力の育成 5　保護者への教育方針や教育活動の伝達 6　好ましい行動の仕方を身につけさせる適切な指導 7　児童生徒や保護者・地域社会のニーズに応える教育 8　児童生徒理解に立った指導	昨年比３項目でポイント増、３項目でポイント減となった。 コロナ禍における日々の授業や学校行事、業務の遂行については、ICT を活用した形態が定着したが、授業参観など保護者が参加し学校や保護者同士直接やりとりするような機会の設定は難しかった。 しかし、保護者や家庭へのサポートを通してニーズを把握し、学校の様子を発信（学校長による学校通信発行、ホームページブログ）することで地域に開かれた教育課程の実現につながると考える。	３	３	・昨年よりさらに ICT を活用している様子がうかがえる。 ・コロナ禍においても保護者への教育方針や教育活動についての説明は必要。生きる力を育む方向性は、多くの保護者の思いとつながるので、今後も保護者との連携は大切にしてほしい。 ・小学部児童の増加による教室不足への対応で、小学部が２カ所のキャンパスを利用する現状については、保護者の意見を聞きながら慎重に対応してほしい。 ・担任の先生の力で児童生徒を成長させるのではなく、学校組織として児童生徒を成長させていく組織力の向上にも努めてほしい。
連携・支援	9　個別の指導計画、個別の支援計画、移行支援計画を作成し、保護者や関係機関との連携、長期間の見通しをもった支援 10　学級通信、連絡帳、懇談などによる保護者への連絡 11　共生社会を目指した学校・地域づくりの推進 12　障がいや個性に応じた進路・就業支援 13　地域センターとしての相談・連携・支援機能の充実	昨年とほぼ同じ評価結果となった。 3.2と高い評価となった項目10については、児童生徒の障がいの実態や学習の成果を保護者へ還元しつつ、長期的な家庭支援の重要性を実感している。 また、更なる働き方改革を行い、児童生徒や保護者と向き合う時間をより確保できるよう努力したい。	３	３	・児童生徒の成長は学校だけで求めるのではなく、保護者との連携、地域社会との関係、連携づくりが必要。地域に根ざした支援学校をこれからも目指してほしい。 ・放デイを含む療育との連携を深め、多角的に児童生徒を理解するために様々な立場からの意見を吸収していただきたい。 ・ＨＰを毎日更新したり、若い保護者さんも受け入れやすい連絡方法をとってい

					ることは評価できる。
研修	14　研究や研修を通じての専門的指導力の向上 15　職員のニーズに応じた研修、教育間の相互支援	昨年とほぼ同じ評価結果となった。 学校全体で取り組む研究として、授業や業務における ICT 機器の活用をテーマとして設定し、全職員が内容に応じて班別に分かれ取り組んだ。 各自「ICT 実践シート」を作成、職員間で共有することで実践的、主体的に取り組み、成果を互いに活用することができた。	3	3	・支援学校の先生方とやり取りする中で、ICT 活用が定着していると感じることがあり、専門性向上に努めている様子が伺える。 ・ICT を使った研究がなされ、3 学部離れた大変さをかなり解消しているように思う。 ・特別支援教育の専門家として自己研鑽に取り組んでほしい。
生活・安全	16　児童生徒の健康な心身、基本的生活習慣の確立 17　交通マナー、社会規範意識等の安全指導の徹底 18　安全面に留意した準備や対応 19　緊急時対策の整備と対応の充実	昨年とほぼ同じ評価結果となった。 医療的ケア対象の児童生徒における緊急時対応シミュレーションや避難訓練は各学部ごとに実施している。併設校等の同時開催を基本としているが、引き渡し訓練等今後も更に課題解決に向けて取り組んでいきたい。	3	3	・併設校との危機管理については、今後も連携を深める必要がある。 ・学部によっては避難経路等の問題があるように思える。 ・朝のスクールバスでの送迎の時間が近隣の保育園の登園時間と重なり、混雑すると聞いた。登校、登園の時間の調整をしてはどうか。 ・安全確保のためのシミュレーションは、様々なケースを想定して実施する必要がある。 ・医ケア児については、西諸地域医療的ケア児等支援連絡会議を通じて関係機関がより連携できれば、と期待している。
その他	20　諸会議、校内研修、課題研の効果的実施 21　児童生徒や職員の人権保護 22　会議の精選、時間短縮、事務処理の軽減化 23　児童生徒は登校を楽しみにしているか 24　ＰＴＡ活動の活性化、保護者の積極的参加 25　施設・設備等、快適で安全な教育環境	昨年とほとんど同じであるが、項目 24「保護者の PTA 活動」については、0.2 ポイント減となった。 コロナ禍で PTA 活動の見通しが持てない中、徐々に元に戻す取り組みを進めていく必要がある。 昨年、大幅増で+0.5 となった項目 22 は、会議の進め方や方法、本校の設置形態にあった決裁方法（ICT を活用）など、工夫や取組	3	3	・今後も児童生徒の実態、ニーズが多様化し、在籍数の増加が予想される。ハード面の課題は継続して改善が必要である。安心安全な環境で学校生活を送れるよう更なる配慮が必要。 ・コロナ禍で対面でのコミュニケーションが難しいため、どうしても保護者との関係が希薄になりやすい。状況に応じて、徐々に保護者との接点を増やし、支援学

	26　個人情報の管理、必要な情報の提供	みが課題研究とも合わさってすっかり定着した。 　教室配置（確保）の見通しや保護者への情報提供については、教育委員会との協議を継続し協力を得ながら、今後も計画的に可能な限り早い段階で行っていく必要があると考える。			校の活動に対し多くの方々に関わっていただければと思う。

1　本年度の取組について…「校訓」に関する事項

＜なかよく＞「互いに助け合う豊かな心の育成」

・十分な感染症対策を行いながら、東方小学校・中学校、小林高等学校との間接的な交流や居住地校交流を通じて、相手を思いやる豊かな心の育成につながった。

・コンプライアンス研修や ICT 活用に向けた演習等に積極的に取り組み、服務規律の遵守や危機管理体制、効率的な業務推進を図った。

＜たくましく＞「自立に向け主体的に生きる力の育成」

・十分な感染症対策を行いながら、スポーツや文化活動、芸術活動(個人参加を含む)に取り組んだ。

＜夢にはばたく＞「キャリア教育の充実と、家庭や地域と連携し、地域に開かれた学校の実現」

・キャリア教育の視点から、中学部の進路体験学習、高等部の産業現場等における実習を通して、卒業後を見据えた指導や支援に努めた。また、本校児童生徒が卒業後何らかの形で利用することが見込まれる西諸地域の主要関係諸機関代表者が顔を合わせる「西諸ネットワーク」を実施することができた。

2　次年度へ向けて

○今年度研究で得た ICT 活用のための手法を積極的に活用し、保護者や地域ニーズの把握と応える体制づくりに務める。

○教室不足や教室配置上の課題解決を目指しながら、環境整備に努める。

○東方小・中学校、小林高等学校との交流及び共同学習や居住地校交流の活動内容や回数を見直し、学習内容の充実を図る。

○災害時緊急時対応訓練及び児童生徒保護者引き渡し訓練、併設校との合同訓練をより実際に即して実施することにより、危機管理体制の強化を図る。